

# 三沢市地域公共交通会議 会議録

会議名称	平成28年度 第3回会議					
開催日時	平成29年3月30日(木) 14時00分～15時30分					
場 所	総合社会福祉センター 2階 ホール1					
出席者	会 長	小渡 章好	委 員	馬場 敏行(代理)	委 員	沼田 巖
	委 員	坂本 幸子	委 員	木村 高広	委 員	平田 昌樹(代理)
	委 員	佐藤 美仁	委 員	山村 雅文	委 員	向中野 貢
	委 員	山本 剛志	委 員	山本 優		
	事務局	三沢市：田島参事、根岸課長補佐、岩織係長、中村主事 株式会社ケー・シー・エス：佐藤、清川				
会議次第	1 開 会 2 会 長 挨 拶 3 議 事 (報告事項) (1) 地域公共交通の路線再編等について 4 閉 会					
会議の経過及び審議結果(概要)						
1 開会  2 会長挨拶  3 議事 (報告事項) (1) 地域公共交通の路線再編等について 事務局から資料：〔報告事項1〕 1・2・3を説明  <主な意見> (馬場代理委員) ・資料の中で東部地域・北部地域と駅シャトル線についての説明はあったが、南部地域についてはどのように考えているか。南部地域には南町や隣接するおいらせ町に住宅が多数立地しているため、買い物や通学の方々をターゲットとして三沢市のまちなかへ誘導することを考えてはどうか。 ・おいらせ町に行く途中に集客施設であるマエダストアが出来たことなどにより、不動産業者が入って盛んに住宅地開発を進めている印象がある。						

(事務局)

- ・地域公共交通網形成計画は三沢市内を対象地域として検討しているものであり、おいらせ町などの周辺市町村との間のバスは十和田観光電鉄が運行している。新たに住宅が立地し始めているエリアについては、今後、必要に応じて検討してはどうかと考えている。
- ・ご指摘のマエダストアについては、店舗の前をビードル東線が運行しているが、バス停の設置は考えていなかったため、今後検討していきたい。

(馬場代理委員)

- ・若い方は郊外に住んでおり移動方法としては車を利用しているケースが多いと感じるが、公共交通をうまく活用して市内の商業施設等に誘導していくことを考えてはどうか。

(小渡会長)

- ・三沢市では新しい道路が整備されるとその沿道に新たに住宅が立地するなどの積極的な動きがあり、地方都市の中では珍しいのではないかと思う。

(佐藤委員)

- ・路線バスについては、より良い運用・運行となるように、運行経路や時間に関してはさらに詳細に検討を進めていきたい。このため、確定までにはもう少し調整等のための時間をいただきたい。

(小渡会長)

- ・北部地域については利用者が少ない中でも、少しでも利用者にとって使いやすい公共交通の移動手段が確保できるようにご努力・ご検討いただいた。屋内に待合スペースがあるバス停や、屋根があるバス停で乗り換えや待ち合わせが出来ることは利用者にとっても非常に良いのではないかと思う。

(坂本委員)

- ・栄町付近に住んでいる。バス停で乗り降りする人がいるかどうか気になって見ているが、現在はあまり利用者がいないように感じる。栄町からミスビードルドームのバス停まで歩いてそれほど遠くない。高齢者にとっては歩くのも運動、ということで、それほど遠くない距離であれば歩く人も多いのではないかと思う。
- ・バス停の設置については少数意見を取り入れ設置できるように配慮することも必要であるが、利用者となる市民の側の意識の問題もあって利用が少ないようなケースも多いのではないか。運転免許を返納した後にはバスを利用する、といった考え方もあって地域公共交通会議の場でも色々と意見は出るが、実際にはそれほど利用されていない状況も見られる。
- ・新しい道路が整備されることで栄町付近の道路が変わっているが、バス停がなくなったり場所が変わったりすることはないか。

(事務局)

- ・栄町のバス停については現状維持を基本に考えている。

(小渡会長)

- ・三沢市は市域が広いため、公共交通で全域をカバーしようとするとうちでも利用者が少ない路線も出てくるが、八戸市では毎日バスで出歩く高齢者も見られ、都市間や都市内の交流を促進することで高齢者が元気になっている事例もあることから、そういった契機になるような仕掛けも考えていかなければならない。

(木村委員)

- ・資料の中で、利用者数が1人に満たないような数字が示されているが、これは1日平均の値であり、半年間の実際の利用者が数名しかいない、といったような見方でよいか。

(事務局)

- ・お示ししているデータは6ヶ月間の平日1日当たりの平均利用者数になっているため、平日の日数を乗じた値が延べ利用者数となる。

(木村委員)

- ・駅シャトル線については、平均して1名程度は乗車しているとのことだが、いつも利用している方かどうかなど、利用者の特定は可能か。

(事務局)

- ・把握できているのは各バス停の乗降者数のみであり、利用者を特定することはできない。バスの乗務員に聞き取りを行うことで、毎日同じ人が利用しているのかどうか、といった点については把握できるのではないかと思う。

(木村委員)

- ・北浜木崎野線と三沢駅方面との乗り継ぎ時間について、現状では1分・7分となっているものが15分などに変更になるようだが、利用者が乗り継ぎ時にどの程度の待ち時間まで耐えられるか、などを考慮した上で設定したものなのか。

(事務局)

- ・北浜木崎野線は北部地域から長い距離を走ってくる路線であり、特に冬季には遅れが生じる可能性がある。現状の駅シャトル線は乗り継ぎに特化して運行している路線であるため、仮に北浜木崎野線の到着が遅れた場合でも出発を遅らせて接続を確保することが可能であるが、ビードル西などの既存路線バスを活用する場合には接続確保のために出発を遅らせることは難しいことから、少し余裕をもって乗り継ぎ時間を設定することを考えている。
- ・アメリカ広場については、バスの運行状況を確認できる「あしあとランプ」が設置されており、また、スカイプラザ内で待つことも可能であるため、乗り継ぎ時間は少し長くなるがこういった場所での乗り継ぎを考えることでできるだけ快適に待ついただくことを検討している。

(小渡会長)

- ・「あしあとランプ」については、設置はされているものの有効に活用されているかどうかは不明である。一般の市民の方々に効果的に活用していただくことを目指して、市民の理解度や活用度の調査などが必要ではないか。
- ・利用状況が厳しい路線もあるが、利用実績が0でない限り路線としては維持していくことも考えられる。一方で、例えば特定の人のみが利用しているような状況なのであれば、別の方法で移動手段を確保することなども議論していく必要があるのではないかと思う。

(2) 料金体系の検討について

事務局から資料：〔報告事項1〕4を説明

(小渡会長)

- 運賃体系の再構築の検討に向けては、対キロ区間制運賃の路線と100円均一である「みーばす」の路線が混在しているエリアもあって、落としどころは難しいのではないかと考えられるが、三沢市らしい公共交通の提案を行っていただきたい。

4 閉会

以 上